

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号  
実用新案登録第3216751号  
(U3216751)

(45) 発行日 平成30年6月21日 (2018. 6. 21)

(24) 登録日 平成30年5月30日 (2018. 5. 30)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 75/58 (2006. 01)

B 6 5 D 77/30 (2006. 01)

A 6 1 M 25/00 (2006. 01)

B 6 5 D 75/58

B 6 5 D 77/30

A 6 1 M 25/00

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

|           |                          |             |                     |
|-----------|--------------------------|-------------|---------------------|
| (21) 出願番号 | 実願2018-1232 (U2018-1232) | (73) 実用新案権者 | 591195237           |
| (22) 出願日  | 平成30年4月4日 (2018. 4. 4)   |             | テクノウッド株式会社          |
|           |                          |             | 東京都足立区江北4丁目30番19号   |
|           |                          | (74) 代理人    | 100080768           |
|           |                          |             | 弁理士 村田 実            |
|           |                          | (72) 考案者    | 殿倉 英次               |
|           |                          |             | 東京都足立区江北4丁目30番19号 テ |
|           |                          |             | クノウッド株式会社内          |

(54) 【考案の名称】 足踏みタブ付き医療用包装体

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 足の踏み力を利用して医療用具を取り出す場合であっても、医療用具を損傷させることなく的確に取り出すことができる医療用包装体を提供する。

【解決手段】 シート材 4 a により長尺な袋状の収納空間 5 が形成されていて該収納空間 5 に長尺な医療用具 7 を該収納空間 5 の伸び方向に伸びるように収納する包装体本体 2 が備えられ、該包装体本体 2 に、該包装体本体 2 の伸び方向一端部よりも他端側において、該包装体本体 2 内を外部に対して開封するための開封部 9 が設けられている。その包装体本体 2 の伸び方向一端部には、足で踏み込むためのタブ 3 が、包装体本体 2 の伸び方向一端部外方に延長されるようにして設けられている。

【選択図】 図 1

**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

シート材により長尺な袋状の収納空間が形成されていて該収納空間に長尺な医療用具を該収納空間の伸び方向に伸びるように収納する包装体本体が備えられ、該包装体本体に、該包装体本体の伸び方向一端部よりも他端側において、該包装体本体内を外部に対して開封する開封部が設けられている医療用包装体であって、

前記包装体本体の伸び方向一端部に、足で踏むための足踏みタブが、該包装体本体の伸び方向一端部外方に延長されるようにして設けられている、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 2】**

請求項 1 において、

前記足踏みタブに、前記包装体本体の色彩とは異なる色彩が付されている、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 3】**

請求項 2 において、

前記足踏みタブに、前記包装体本体内に収納される医療用具に応じて決定される独自の色彩が付されている、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 4】**

請求項 1 において、

前記足踏みタブが、前記包装体本体よりも重い別個の材質をもって形成されている、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 5】**

請求項 1 において、

前記足踏みタブに、孔が形成されている、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 6】**

請求項 5 において、

前記孔は、足踏みタブを足で踏むとき、該足の足裏に対して該孔の内周縁部が係合することを可能とする大きさである、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 7】**

請求項 3 において、

前記足踏みタブが、前記包装体本体よりも重い別個の材質をもって形成され、  
前記足踏みタブに、孔が形成され、  
前記孔は、前記足踏みタブを足で踏むとき、該足の足裏に対して該孔の内周縁部が係合することを可能とする大きさである、  
ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【請求項 8】**

請求項 1 ないし請求項 7 のいずれか 1 項において、

前記医療用具がカテーテルである、ことを特徴とする足踏みタブ付き医療用包装体。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、カテーテルのような医療用具を収納する足踏みタブ付き医療用包装体に関する。

**【背景技術】****【0002】**

医療用包装体には、特許文献 1 に示すように、2 枚のシート材により袋状に形成されて長尺とされた包装体本体を備えるものがある。この包装体本体内には、カテーテルのよう

10

20

30

40

50

な可撓性を有する長尺な医療用具が密封（封印）した状態で収納され、その医療用具は、包装本体内部において、その包装体本体の伸び方向に伸ばされた状態とされる。

【 0 0 0 3 】

ところで、上記のような包装体本体には、その伸び方向一端部を一般的な封止状態とする一方、その包装体本体の伸び方向他端部に開封部を設け、その開封部を、包装体本体を構成する２枚のシート材の各伸び方向他端部同士を引き剥がし可能な状態で溶着することにより構成（但し、両シート材の伸び方向他端から内方へほんの一部だけ把持部として非溶着部分を構成）したものがある。

【 0 0 0 4 】

このような包装体本体から医療用具を取り出す際には、二人の医療従事者（医師、技師、看護師等）がその作業を行うことになる。一方の医療従事者は、包装体本体の伸び方向一端側部分を足で踏みつける一方で、その包装体本体における各シート材の伸び方向他端部を各手でそれぞれ持ち、その各シート材の伸び方向他端部同士（開封部）を、その両シート材の伸び方向一端側部分から伸び方向他端部にかけて緊張状態としつつ引き剥がす。この各シート材の伸び方向他端部同士の引き剥がしが行われることにより、包装体本体の伸び方向他端側が開口して、その包装体本体内部の医療用具が外部に表れることになる。他方の医療従事者（この者は清潔術衣及び滅菌済み手袋を装着）は、この後、包装体本体内部にその伸び方向他端側から手を入れて、医療用具を清潔的に（滅菌操作にて）抜き出す。これにより、このような開封方法をとれば、医療用具の取出しに際し、包装体本体を、その伸び方向一端側部分から他端部にかけての部分に緊張状態とすることができ、医療用具を清潔を保ちつつ安全に包装体本体から抜き出すことができる。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 5 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 1 7 - 1 7 1 3 3 0 号 公 報

【 考案の概要 】

【 考案が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 6 】

しかし、上記医療用包装体においては、包装体本体の伸び方向一端側部分を足で踏むとき、足元が良く見えないことから、その包装体本体内部における医療用具も足で踏むおそれがあり、そのときには、足で踏む力が小さくないことから、包装体本体内部における医療用具を損傷させることがある。しかも、医療用具を包装体本体から取り出すことが、薄暗い使用環境で行わなければならないかたり、症例により追加の医療用具を急いで用意しなければならないかたりすることがあり、それらのことは、包装体本体の一端側部分を足で踏む際、その包装体本体における一端側部分内の医療用具についても誤って踏む可能性を高める。

【 0 0 0 7 】

本考案は、上記実情に鑑みてなされたもので、その目的は、足の踏み力を利用して包装体本体から医療用具を取り出す場合であっても、医療用具を損傷させることなく的確に取り出すことができる医療用包装体を提供することにある。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 8 】

前記目的を達成するために本考案にあつては、下記の（１）～（７）の構成とされている。

（１）シート材により長尺な袋状の収納空間が形成されていて該収納空間に長尺な医療用具を該収納空間の伸び方向に伸びるように収納する包装体本体が備えられ、該包装体本体に、該包装体本体の伸び方向一端部よりも他端側において、該包装体本体内部を外部に対して開封する開封部が設けられている医療用包装体であつて、

前記包装体本体の伸び方向一端部に、足で踏むための足踏みタブが、該包装体本体の伸び方向一端部外方に延長されるようにして設けられている構成とされている。

## 【 0 0 0 9 】

この構成によれば、医療従事者は、包装体本体から医療用具を取り出す際、包装体本体から離れて該包装体本体とは別個とされた足踏みタブだけを足で確実に踏むことができることになり、包装体本体を足で踏んでその包装体本体内の医療用具を踏むことを確実に防止できる。このため、当該医療用包装体を用いることにより、その中に収納される医療用具を損傷させることなく的確に取り出すことができる。

( 2 ) 前記 ( 1 ) の構成の下で、

前記足踏みタブに、前記包装体本体の色彩とは異なる色彩が付されている構成とされている。

## 【 0 0 1 0 】

この構成によれば、足踏みタブを包装体本体に対して色彩の相違に基づき目立たせることができ、包装体本体から医療用具を取り出す際、足踏みタブだけを足により確実に踏むことができる。

( 3 ) 前記 ( 2 ) の構成の下で、

前記足踏みタブに、前記包装体本体内に収納される医療用具に応じて決定される独自の色彩が付されている構成とされている。

## 【 0 0 1 1 】

この構成によれば、足踏みタブの独自の色彩を通じて、包装体本体内に収納される医療用具を知ることができ、必要とする医療用具を迅速に取り出すことができる。

( 4 ) 前記 ( 1 ) の構成の下で、

前記足踏みタブが、前記包装体本体よりも重い別個の材質をもって形成されている構成とされている。

## 【 0 0 1 2 】

この構成によれば、包装体本体の伸び方向他端側部分を手で持てば、包装体本体の伸び方向一端側部分が床面に向けて円滑に垂れ下がると共に、それに伴って、足踏みタブを床面において倒伏した状態とすることができる。このため、足踏みタブを足により迅速且つ容易に踏むことができ、包装体本体からの医療用具の取り出し作業を迅速に行うことができる。

( 5 ) 前記 ( 1 ) の構成の下で、

前記足踏みタブに、孔が形成されている構成とされている。

## 【 0 0 1 3 】

この構成によれば、孔を吊り下げ用の孔として利用することができ、その孔を、保管場所における引っ掛け具に引っ掛けることにより、当該医療用包装体を吊り下げた状態で保管することができる。

( 6 ) 前記 ( 5 ) の構成の下で、

前記孔は、前記足踏みタブを足で踏むとき、該足の足裏に対して該孔の内周縁部が係合することを可能とする大きさである構成とされている。

## 【 0 0 1 4 】

この構成によれば、足踏みタブを足で踏むとき、足の押圧力によって足踏みタブを床面に押し付けることができるだけでなく、足裏を孔の内周縁部に係合させて、足踏みタブが床面上においてスライドすることを規制することができる。このため、足踏みタブを足で踏むとき、足踏みタブを確実に床面に保持でき、包装体本体からの医療用具の取り出し作業を的確に行うことができる。

( 7 ) 前記 ( 3 ) の構成の下で、

前記足踏みタブが、前記包装体本体よりも重い別個の材質をもって形成され、

前記足踏みタブに、孔が形成され、

前記孔は、前記足踏みタブを足で踏むとき、該足の足裏に対して該孔の内周縁部が係合することを可能とする大きさである構成とされている。

## 【 0 0 1 5 】

この構成によれば、前述の ( 1 ) ~ ( 6 ) の作用効果を奏することができ、最も好まし

10

20

30

40

50

い足踏みタブ付き医療用包装体を提供できる。

【0016】

前記各構成において、収納される医療用具をカテーテルとすることができる。

【考案の効果】

【0017】

本考案によれば、足の踏み力を利用して包装体本体から医療用具を取り出す場合であっても、医療用具を損傷させることなく的確に取り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】実施形態に係る医療用包装体を示す図。

10

【図2】図1の一部分を示す一部拡大右側面図。

【図3】実施形態に係る医療用包装体の使用を説明する説明図。

【図4】他の実施形態を説明する説明図。

【考案を実施するための形態】

【0019】

以下、本考案の実施形態について、図面に基づいて説明する。

【0020】

図1において、符号1は、医療用具を収納する実施形態に係る医療用包装体を示す。この医療用包装体1は、滅菌袋を構成する長尺な包装体本体2と、その包装体本体2の伸び方向一端部（図1中、下端部）に取付けられる足踏みタブとしてのタブ3（足踏み用延長代）と、を備えている。

20

【0021】

前記包装体本体2は、図1、図2に示すように、2枚のシート材4a、4bを用いることにより袋状に形成されている。各シート材4a（4b）は、細幅状態をもって同じ長さだけ真っ直ぐに伸びるものとなっており、その各伸び方向の長さは、収納すべき医療用具に応じて、1m前後、1m以上とされている。本実施形態においては、この2枚のシート材4a、4bとして、熱溶着できる材質（可撓性を有するフィルム（軟質性樹脂等））のものが用いられており、そのうちの一方のシート材4aには透明性が確保され、他方のシート材4bには半透明性又は不透明性が確保されている。この両シート材4a、4bは、その両周縁部が熱溶着により互いに接合されており、その両シート材4a、4bの内部には、長尺な袋状の収納空間5が形成されている。この収納空間5は、後述の医療用具7が収納された後に、両シート材4a、4bの周縁部の全てを熱溶着することにより、密閉状態とされることになっており、収納空間5に医療用具7が収納されていない時点では、医療用具7をその収納空間5に収納可能とすべく、両シート材4a、4bの周縁部の全ては互いに接合されていない（一部開放）。この場合、熱溶着を行うに当たっては、医療用具の滅菌性確保の観点から、袋熱シールとして、2.5N/15mm以上の接合強度（シール強度）が確保されている。

30

【0022】

図1中、符号6は、両シート材4a、4b周縁部に形成される接合部を示している。その接合部6は、包装体本体2の伸び方向一端側（図1中、下端側）における接合部6aと、包装体本体2の伸び方向他端側（図1中、上端側）における接合部6bと、包装体本体2の幅方向（図1中、左右方向）両側における接合部6cとにより構成されている。このうち、包装体本体2の伸び方向一端側における接合部6aは、包装体本体2の伸び方向一端から多少、包装体本体2の伸び方向内方に位置されており、その接合部6aよりも外方側の部分においては、両シート材4a、4bは互いに接合されていない。また、包装体本体2の伸び方向他端側における接合部6bは、包装体本体2の伸び方向他端から若干、包装体本体2の伸び方向内方に位置されており、その接合部6bよりも外方側の部分においては、両シート材4a、4bは互いに接合されておらず、その部分は、把持するための把持部15となっている。

40

【0023】

50

前記包装体本体 2 内の収納空間 5 には、長尺な医療用具 7 が台紙 1 3 に簡易的に保持（切起こし、切り欠き等を用いて保持）された状態で収納される。本実施形態においては、医療用具 7 として、カテーテル（以下、医療用具と同一符号を用いる）7 が、包装体本体 2 の伸び方向に伸びるようにして収納されることになっており、カテーテル 7 は、その先端部 7 a が包装体本体 2 の伸び方向一端側に向けられ、その基端部 7 b が包装体本体 2 の伸び方向他端側に向けられることになる。この収納空間 5 へのカテーテル 7 の収納に関しては、上述の如く、最終的に両シート材 4 a , 4 b における全周縁部が熱溶着される前に（収納可能状態のとき）、収納空間 5 にカテーテル 7 が収納されることになっており、最終的に収納空間 5 にカテーテル 7 が収納されたときには、両シート材 4 a , 4 b における全周縁部が熱溶着され、その収納空間 5 は密閉状態かつ滅菌状態とされる。

10

#### 【0024】

前記タブ 3 は、図 1 に示すように、矩形の板状に形成されている。このタブ 3 の幅は、包装体本体 2 の幅よりも多少、短くされ、そのタブ 3 の長手方向一端部（図 1 中、上端側）は、包装体本体 2 を構成する両シート材 4 a , 4 b の伸び方向一端部間（接合部 6 a よりも包装体本体 2 の伸び方向外方側部分）に入れられた状態で、両シート材 4 a , 4 b に対して熱溶着されている。このため、タブ 3 の素材としては、熱溶着できるもの、例えばポリエチレン等が用いられ、そのタブ 3 の重さは包装体本体 2 よりも重いものとなっている。このタブ 3 と両シート材 4 a , 4 b との溶着強度は、前記シート材 4 a , 4 b の周縁部同士の溶着強度よりも格段に高いものとされている。尚、この熱溶着は、カテーテル 7 を包装体本体 2 内に収納して密閉袋熱シールをした後、行われる。

20

#### 【0025】

他方、タブ 3 の長手方向他端側（図 1 中、下端側）は、包装体本体 2 の伸び方向一端よりも外方へ伸びている。この伸び量は、大人の足幅前後に設定されており、そのタブ 3 の大きさは、足の前半分が載るくらいとされている。このタブ 3 の長手方向他端部には、吊り下げ用の孔 8 が形成されており、この孔 8 を保管場所の引っ掛け具（図示略）に引っ掛けることにより、当該医療用包装体 1 を吊り下げた状態で保管できることになっている。

#### 【0026】

また、このタブ 3 には色彩（色分け模様を含む）が付されている。このタブ 3 の色彩は、包装体本体 2（両シート材 4 a , 4 b）の色彩とは異なるあざやかな色彩とされ、包装体本体 2 に対してタブ 3 の存在が明確化されているばかりか、包装体本体 2 内に収納されるカテーテル 7 に応じて（用途に応じて）、タブ 3 が独自の色彩を有することになっている。例えば、本実施形態においては、赤色のタブ 3 の場合には左冠動脈造影用カテーテル 7、黄色のタブ 3 の場合には右冠動脈造影用カテーテル 7、青色のタブ 3 の場合には左心室造影用カテーテル 7 が包装体本体 2 内にそれぞれ収納されていることを示すことになっている。

30

#### 【0027】

本実施形態においては、前記包装体本体 2 の伸び方向他端側における接合部 6 b が開封部 9 として利用されている。接合部 6 b においては、両シート材 4 a , 4 b の接合強度が、その各シート材の把持部（非溶着部）1 5 を各手でそれぞれ把持してその両シート材 4 a , 4 b を互いに離間する方向に引き剥がす（開封する）ことができるものとされており、その接合部 6 b の接合強度は、開封を的確に行うために、他の接合部 4 a , 4 c の接合強度よりも多少、小さいものが好ましい。これにより、接合部 6 b において、両シート材 4 a , 4 b の伸び方向他端部同士が引き剥がされれば、包装体本体 2 内（収納空間 5）の伸び方向他端側が外部に開口されることになり、これに伴い、カテーテル 7 の基端部側が外部に露出されることになる。

40

#### 【0028】

このような医療用包装体 1（包装体本体 2）からカテーテル 7 を取り出す際には、先ず、図 3 に示すように、第 1 の医療従事者 H 1 が、包装体本体 2 他端部における各シート材 4 a , 4 b の各把持部 1 5 を把持し、足 1 1 の踏み力により包装体本体 2 の伸び方向一端側を下方に引っ張りながら、両シート材 4 a , 4 b の伸び方向他端部同士を互いに離間す

50

る方向に引き剥がす。これにより、接合部 6 b ( 開封部 9 ) が開封されることになり、包装体本体 2 内 ( 収納空間 5 ) は外部に開放され、カテーテル 7 の基端部側が外部に露出することになる。

【 0 0 2 9 】

カテーテル 7 の基端部側が外部に露出すると、医療従事者 H 1 が足 1 1 の踏み力により包装体本体 2 の伸び方向一端側を下方に引っ張っている状態の下で、別の医療従事者 ( 図示略：この者は清潔術衣及び滅菌済み手袋を装着している ) が、台紙 1 3 を摘まむことによりカテーテル 7 を包装体本体 2 内から清潔的に ( 滅菌操作にて ) 引き出す。

【 0 0 3 0 】

上記のように、台紙 1 3 ( カテーテル 7 ) の引き出しが開始されると、その台紙 1 3 の引き出しに伴い、別の医療従事者は、この後、両手を使ってカテーテル 7 を引き出すことになる。このとき、医療従事者 H 1 が足 1 1 の踏み力により包装体本体 2 の伸び方向一端側を下方に引っ張っていることから、包装体本体 2 は、台紙 1 3 の引き出しに伴い、包装体本体 2 が引き上げられることはない。

【 0 0 3 1 】

この場合、上述の通り、医療従事者 H 1 は、足 1 1 の踏み力により包装体本体 2 の伸び方向一端側を下方に引っ張ることになるが、包装体本体 2 から離れて該包装体本体 2 とは別個のものとされたタブ 3 を足 1 1 で踏むことから ( 図 3 参照 )、包装体本体 2 の伸び方向一端側部分を足 1 1 で踏むことを確実に防止でき、包装体本体 2 内のカテーテル 7 についても踏むことを確実に防止できる。しかもこのとき、タブ 3 と包装体本体 2 との色彩の相違に基づきタブ 3 を目立たせることができ、タブ 3 だけを足 1 1 により踏む確実性を高めることができる。したがって、包装体本体 2 内に収納されるカテーテル 7 を損傷させることなく的確に取り出すことができることになる。

【 0 0 3 2 】

またこの場合、カテーテル 7 の引き出し作業においては、タブ 3 が包装体本体 2 よりも重いことから、包装体本体 2 の伸び方向他端側部分を手 h 1 , h r で持てば、包装体本体 2 の伸び方向一端側が床面 1 2 に向けて円滑に垂れ下がり ( 緊張状態 )、タブ 3 は床面 1 2 において倒伏した状態となる。このため、タブ 3 を足 1 1 により迅速且つ容易に踏むことができ、これに伴い、包装体本体 2 からの医療用具の取り出し作業を迅速に行うことができる。

【 0 0 3 3 】

さらには、タブ 3 に、包装体本体 2 内に収納されるカテーテル 7 に応じた独自の色彩が付されていることから、その独自の色彩を通じて、包装体本体 2 内に収納されるカテーテル 7 の種類を知ることができ、必要とするカテーテル 7 を迅速に取り出すことができることになる。なお、カテーテル 7 の種類分けとして、例えば次のようにすることができる。赤色のタブ 3 は左冠動脈造影用カテーテル、黄色のタブ 3 は右冠動脈造影用カテーテル、青色のタブ 3 は左心室造影用カテーテル、上記以外の色のタブ 3 はその他の造影用カテーテル等、とすることができる。

【 0 0 3 4 】

図 4 は他の実施形態を示すものである。この他の実施形態において、前記実施形態と同一構成要素については同一符号を付してその説明を省略する。

【 0 0 3 5 】

図 4 に示す他の実施形態においては、タブ 3 の中央部に比較的大きな孔 8 が形成されており、その孔 8 は、タブ 3 を靴 1 1 a ( 足 1 1 ) で踏むとき、その靴裏 1 1 a a に対して孔 8 の内周縁部 8 a が係合するように設定されている。

【 0 0 3 6 】

これにより、タブ 3 を靴 1 1 a ( 足 1 1 ) で踏むとき、足 1 1 の押圧力によってタブ 3 を床面 1 2 に押し付けることができるだけでなく、靴裏 1 1 a a を孔 8 の内周縁部 8 a に係合させて、タブ 3 が床面 1 2 上においてスライドすることを規制することができる。この結果、タブ 3 を確実に床面 1 2 に保持でき、包装体本体 2 からのカテーテル 7 の取り出

10

20

30

40

50

し作業を的確に行うことができる。特にこの場合、孔 8 が、靴裏 1 1 a a が孔 8 を介して床面 1 2 に接触するくらいの大きさがより好ましい。靴裏 1 1 a a と孔 8 の内周縁部 8 a との係合が、より確実なものとなるからである。

【 0 0 3 7 】

勿論この場合も、孔 8 は、吊り下げ用の孔として利用することができる。

【 0 0 3 8 】

以上実施形態について説明したが、本考案は実施形態に限定されるものではなく、例えば次のような態様をも含むものである。

( 1 ) シート材 4 a , 4 b 同士の接合、シート材 4 a , 4 b とタブ 3 との接合において、  
接着剤等を用いること。 10

( 2 ) 医療用具として、カテーテル 7 以外の長尺のものを用いること。

( 3 ) 開封部 9 として、種々の形式のものを採用すること。

( 4 ) タブ 3 の形状は、方形に限らず、三角形、楕円形等、適宜の形状とすることができる。タブ 3 の形状と色彩との組み合わせより、包装されている医療用具を識別させることもできる。

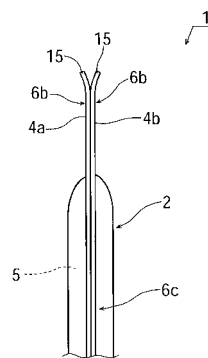
( 5 ) タブ 3 の表面に、内容物の種類等を示す文字表示や図形表示を行うこともできる。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 9 】

- 1 医療用包装体
- 2 包装体本体 20
- 3 タブ ( 足踏みタブ )
- 4 a 一方のシート材
- 4 b 他方のシート材
- 6 b 接合部 ( 開封部 )
- 5 収納空間
- 7 カテーテル ( 医療用具 )
- 8 孔
- 8 a 孔の内周縁部
- 9 開封部
- 1 1 足 30
- 1 1 a 靴
- 1 1 a a 靴裏

【圖 2】



【 図 3 】

